

「うなぎ資源回復・夏の取組」のための産地見学・学習会に参加いたしました。

今年も、パルシステム様と組合員様・産地・行政が一体となる、「うなぎ資源回復」の取り組みや、美味しい蒲焼の加工技術、ウナギの育て方などを産地で見て実感し、組合員様へ「伝える」活動を目的として、産地見学と学習会が開催されました。

弊社では、パルシステム様向けに、大隅産刻みうなぎ製品を販売させていただいております。その関係もあり、加工メーカーとして学習会サポートの立場で参加させていただきました。

学習会の目玉となるのは、石倉カゴ設置と放流モニタリング調査です。

「石倉カゴ」とは、樹脂製の網で作ったカゴのなかに大きな石をたくさん詰めこんだものです。網の中の石と石の間にはすき間がたくさんできますので、川の中に入れておくと、そのすき間にウナギや、ウナギのエサとなるいろいろな生きものが入り込んで、住みつくようになります。ウナギにとっては、すみかができるとともに、エサもたくさんある暮らしやすい場所となります。

この石倉カゴを設置することで、うなぎの住みやすい環境を整備します。

また、石倉カゴを定期的に引き上げ、うなぎを含め、どんな生き物がいるのか確認します。捕獲したうなぎはサイズを測り、ピットタグ（個体識別するマイクロチップ）をつけ、川に戻します。この活動を続けることで、データを蓄積し、どの環境に放流するのがうなぎの生存率が高くなるかを確かめていきます。

この活動が「うなぎ資源回復」に向けての大きな取組となります。

うなぎ資源回復に向けて一番簡単な方法は、うなぎを食べないことです。

しかし、パルシステム様としては、生産者様の生活を守ることも考え、うなぎ資源を「食べながら守る」という方針をあげております。

弊社としても、その方針に強く共感し、うなぎ製品を扱うメーカーとしても、この取組に少しでも協力できるよう、微力ながら今後もサポートを続けていきたいと考えております。

加工販売部

